

熟年離婚を防ぐには

「団塊世代」（一九四七～四九年生まれ）の定年退職が始まる二〇〇七年が近づいてきた。会社から、家庭や地域社会に戻る男たちは、どんなことに留意しておへべきか。岡山県男女共同参画推進センター（岡山市中山下）で、第二の人生を迎える男性向け講座が開かれ、高松市出身のフリーライター 吉田清彦さん（六二）兵庫県尼崎市IIが熟年離婚の防止策などを「伝授」した。（大立貴仁）

岡山で団塊世代男性向け講座

講座は、同センター主催 女共同参画社会へ♡晩婚、「おとなの土曜塾」自分ら少子化で、一人の女性が新しいライフスタイルを求め、生涯に産む子どもの数の推定値を表す合計特殊出生率が「後半人生の楽しみ方」を低下し続け、〇五年は過去生再設計のススメ 会社人最低の一・二五▽自殺者が間から生活人間へ」と題し、九八年から八年連続で三万七千人を減らし、大半が男性。岡山、備前市などの団塊世代を中心に男性は異常。今は三十、四十五十五人が熱心に耳を傾けていた。吉田さんはまず、現代日本の社会背景に言及。「男は外で働き、女は家庭を守る」という性別役割分業制、二十万組が結婚する一方、約二十万組が離婚、離婚時合意または裁判所から、互いに支え合う男

自立した「生活人間」に



「言いたいことをためず、パートナーと会話を」と呼び掛ける吉田さん

夫婦間での会話も重要

が決定すれば、結婚期間「晩飯は？」と聞いていて中に支払った保険料に相当する厚生年金を分割できる制度が〇七年四月から導入される」と紹介。十年の平均余命があり、夫不在で成り立っていた二十～六十歳の労働時間と六十一～八十歳の余暇時間（夫が帰る、外出する間）は同じ」と指摘し、仕事人間から自分・家庭・妻に「どこに行くのか。人間から自分・家庭・

社会の三つの顔を持った一歩前進を望む。これは「生活人間」になることを提案。現状認識として「男生活自立度チェック」大坂のメンズセンター・伊藤だんと「化石人間」とされる。吉田さんは「二〇〇九年に一つづつ一年で十二増やそう」と訴えた上で、参加者の「人生再設計」プランを

「おとなの土曜塾」第三回は十一月十一日午後一時半から同センターで、辻博明岡山県立大教授による「五十年代からの健康講座」がある。対象は男性のみ。無料。申し込みは同センター（086-23351330）。

「趣味を持ちたい」「晴耕雨読をする」「老人ホームの慰問などボランティア活動をやりたい」。これらに参加し、熟年離婚にならないようにしたい」という決意まで飛び出す」と論じた。

え、自立度を診断する内容。考えた。個人、家庭、家族、地域・社会の三領域の男性は「本格的自立人間」で三十五年単位の夢や、実で「熟年離婚の心配はな

妻との会話回復に向け相手の「いいところ」を自分の「悪いところ」も記述。料理が上手」「若々しい」お

男の生活自立度チェック 自分のことは、自分でしていますか！

1. ご飯を炊くことができる
2. 自分で飲むお茶は自分で入れている
3. 夕食の材料を一人で揃えることができる
4. よく一人でスーパーに買い物に行く
5. テキストなしで作れる料理が8種類以上ある
6. 週に5度以上、食後の後片付けをしている
7. 電気掃除機を使うことができる
8. トイレの掃除をよくする
9. ワイシャツのボタン付けができる
10. 自分のワイシャツに自分でよくアイロンをかける
11. 人目を気にせずに洗濯物を干すことができる
12. 自分の背広・ネクタイ・靴下・下着がどこにあるか分かる
13. 自分の服は自分で買う
14. 自分が住んでいる地域のゴミ収集の分別方法を正確に知っている
15. 役所への諸届けはひとりでできる
16. 自治会などの回覧は必ず読む
17. 地域で今問題になっていることをひとつ以上上げることができる
18. 会合と挨拶をする地域の知り合いが10人以上いる
19. 仕事関係以外の親しい（現在もよく付き合う）友人が何人かいる
20. 自分なりの趣味をもっている

「若々しい」おほかで優しい旅③地域社会では生活向上に有用なパソコン、料理サークルで仲間づくり、徒歩「口下手」気や自転車やフラッシュ地域が短い「自再発見、介護・子育てボランティア」などを例示の自省の弁がた。披露された。このやり取りを夫婦間の食事、睡眠、ストレス管理で、結婚記念筋肉は使わないと衰える。日や互いの誕生日に、筆記内容を交換し、健康で豊かな第二の人生を築いてほしい」と呼び掛けた。